

普通科人文・社会科学30班

子どもの「居場所」を守るための地域の取り組みとは

班員 伊東優衣 柳橋彩音 鎌田こはる 甲斐観月 甲斐愛海
指導者 木佐貫先生

研究の動機

私達は教育に関わる職業につきたいと考えています。教師は、精神的なサポートも大切だと考え、また学校以外の場所でこういった形で子どもたちの居場所が守られているか知りたいと思ったから。

先行研究

日本の子どもの六人に一人は貧困の状態にある。また、生活保護の条件を満たせず、労働を優先してしまい、親が子どもとの時間が取れなくなっているため、「心の貧困」を抱える子どもが増えている。

家で寂しい思いをしている子どもなど様々な子が子ども食堂にやってくる。そこでの楽しみは「公園で遊ぶこと」「みんなでご飯を食べること」など、子ども食堂は子どもたちにとって居場所となっていることがわかった。

研究方法

実際に子ども食堂のボランティアに参加し、ボランティアの方々に話を聞く。

〈質問内容〉

- ・やりがいを感じるのはどんな時か
- ・子どもたちと接する上で大切にしていることは何か
- ・どんな思いでこの活動を始めたか



必要な道具

- ・エプロン
- ・三角巾
- ・マスク
- ・質問用紙



仮説

・地域の取り組みが学校教育にもたらす良い影響

→集団生活である学校で馴染めない子ども達が子ども食堂で心のゆとりができ、そこから人間関係を学び築くことができ、集団生活に馴染める。

・保護者の方に与える良い影響

→子供達だけでなく、仕事で忙しかったり、育児で大変だったりしている保護者の方の安心できる「居場所」にもなる。



研究計画

春休み、夏休みに「こども食堂のべおか今山」のボランティアに参加する。

4～5月	こども食堂訪問①
6～7月	行った感想まとめ①
夏休み	こども食堂訪問②
9～10月	行った感想まとめ②
11～12月	考察

参考文献

常盤小学校区における子ども食堂の必要性と役割

<http://polgeog.jp/wp-content/uploads/2020/03/kurita2019.pdf>

